

専攻科における中高生のためのキャリア教育 ～夏休み歯科技工体験講座～

歯科技工科

歯科技工士は就労するうえで聴覚のハンディキャップの少ない職業であることから、聴覚障害者が最も多く従事している医療職種である。今後の超高齢化社会の到来に向けて、歯科技工士のニーズは益々高まることが予想されるが、現在、歯科技工士の高齢化も問題となっており、将来を担う若い人材の育成が必要となっている。しかし、歯科技工士は歯科医師や歯科衛生士に比べ裏方的存在であることから、患者との接点が少なく、歯科医療を支える重要な存在にもかかわらず、一般的な認知度は高くない。

そこで歯科技工科では、歯科技工士がどのような仕事かを知ってもらうため、中学生以上の聴覚障害者を対象に「夏休み歯科技工体験講座」（以下、体験講座）を開催している。本稿では、平成 27 年度まで延べ 151 人が参加した体験講座の実践内容とアンケート結果等から、中高生に向けた専攻科発信のキャリア教育について考察する。

【キーワード】 キャリア教育 進路指導 職業体験 歯科技工

1 はじめに

キャリア教育とは、「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」と「今後の初等中等教育と高等教育の接続の改善について（答申）」（中央教育審議会 平成 11 年 12 月 16 日）において定義されている。

この中にある「職業に関する知識」を身につけ、「主体的に進路を選択する」ためには、どのような職業があるのかを知ること、特に障害のある場合は、その道が拓かれているのか、就学および就労実績なども踏まえておくことが必要ではないだろうか。

全国の聾学校には、職業に関する専門知識・技能の習得を目的とした専攻科が 37 校に設置されている（2014 年 10 月現在 橋本・聴覚障害 vol. 69 秋号）。その職業についての最新情報、就労のために必要な知識・技能、社会的意義、就業実績やロールモデルの提示など、専攻科の持っている具体的な情報や教育ツールは、中高生へのキャリア教育にも活用可能なものである。

その一例として、本校歯科技工科において「夏休み歯科技工体験講座」と題して行ってきた中高生に向けたキャリア教育の実践について紹介する。

2 体験講座とは

体験講座の概要を表 1 に示す。

表 1 体験講座の概要

対象	聴覚に障害がある中学生以上
目的	歯科技工の仕事がどんなものか体験を通して知ってもらうこと
開催日	7 月下旬の日曜日
開始年	平成 16 年
参加者	延べ 151 人（H16 年～H27 年 計 12 回 保護者・教員除く）

毎年 6 月上旬に、全国の聾学校（中学部・高等部）および難聴学級（中学校・高等学校）に案内ポスター（図 1）や概要説明書、申込書等を送付し、参加を募っている。



図1 体験講座案内ポスター

3 体験講座の内容

体験講座の主な内容は「歯科技工士の仕事紹介」と「体験実習」に分けられる。

表2 体験講座の日程

時間	実施内容
10:00~	開講式 歯科技工士の仕事紹介
10:30~	体験実習 (昼食をはさむ)
14:50~	閉講式 (15:00 終了)

歯科技工士の仕事紹介では、歯科技工士がつくるものはどんなものがあるか、また、歯科技工士が国家資格であること、歯科医師や歯科衛生士との違いや関係性、歯科技工士の就業場所の種類、歯科技工室や歯科技工所の様子、歯科技工士の役割と重要性、等を途中でクイズを交えながら紹介している。

参加する生徒達のコミュニケーション方法は多様であるので、情報保障は口話、手話、スライド、文字表示を用意している。

また、説明だけでなく、歯科技工士が製作する補綴装置や矯正装置を実際に手に取って見ることができるようにしている。



図2 歯科技工士の仕事紹介のようす

4 体験実習

体験実習で製作するのは、ミニ義歯（3 cm 程度の小さな入れ歯）とペンシルクラウン（鉛筆に合う歯のかぶせもの）の2つである（図3）。

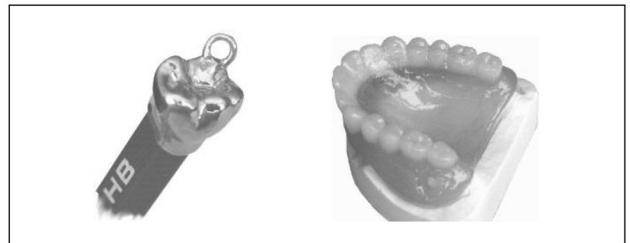


図3 ペンシルクラウンとミニ義歯

できるだけ実際の歯科技工と同様の方法で、且つ専門知識のない初心者でもできるように工程を組んでいる。製作手順は動画を用いて繰り返し確認し、教員が付き添い、安全に配慮して作業を進めている（表3、図4～8）。

表3 実際の歯科技工工程と体験実習内容

クラウンの製作工程	義歯の製作工程
①模型の製作	①模型の製作
②蠟型の製作	②咬合床の製作
③スプルーの植立	③人工歯排列・歯肉形成
④鋳型材で埋没	④蠟義歯の埋没・流蠟
⑤蠟型の焼却	⑤レジン填入・重合
⑥金属の融解・鋳造	⑥形態修正・研磨

体験



図7 金属の融解・鋳造



図4 作業内容を動画で確認

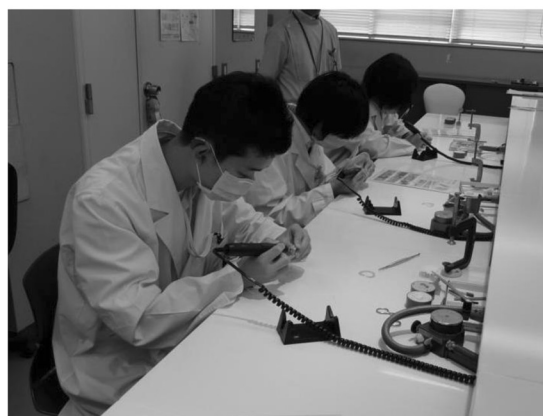


図8 形態修正・研磨

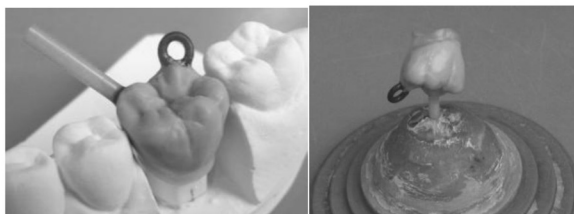


図5 スプルーの植立



図6 鋳型材で埋没

5 体験講座の参加者

平成16～27年度までの12回の参加者延べ151人（保護者、教員除く）について示す。

年度別の参加者数を図9に示す。体験講座の告知は、はじめは本校ウェブサイトによる告知と全国の聾学校高等部へ案内を送付する程度だったが、聾学校中学部、さらに平成22年からは中学校難聴学級にも案内を送付するようにしたことで、中学生の参加が増えてきた。

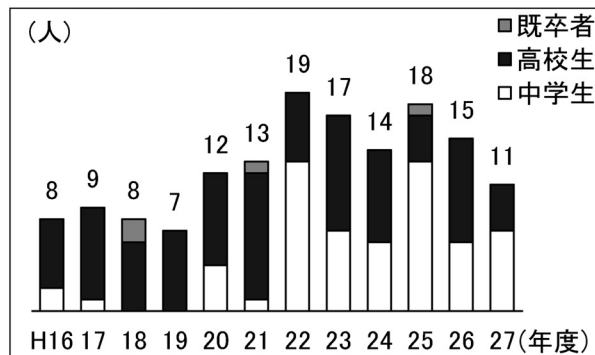


図9 参加者数 年度別

地域別の参加者数を図10に示す。地理的に近い関東地方からの参加が最も多い。次いで中部地方が、距離的条件が同様の東北と比べてもかなり多い。これは中部地方のある県の聾学校からの参加が一定数あることが影響している。おそらく進路指導において、歯科技工も数ある選択肢の一つとして提示し、体験講座のことも生徒や保護者によく紹介して下さっていると思われる。

本校歯科技工科の入学者は全国区であるが、遠方になるほど歯科技工科入学者が体験講座の参加者数を上回る傾向があり、遠方がゆえに体験講座に参加しにくい現状があることが分かる。遠方の生徒が参加しやすい機会を設けることも今後考えていきたい。

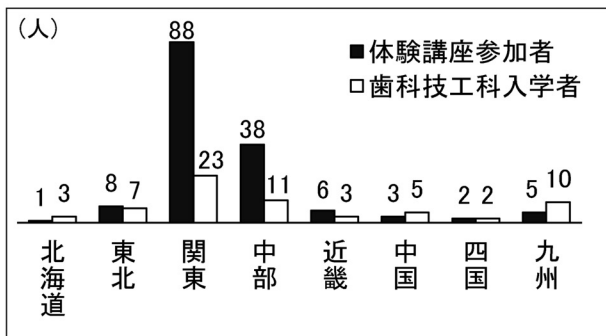


図10 参加者数 地域別

(歯科技工科入学者 (平成17~27年度) との比較)

学年別、学校種別の参加者数を図11に示す。学校種別でみると、普通校は高三生の参加が多いのに対して、聾学校は高二生が最も多く、聾学校における進路指導の取り組みの早さがうかがえた。

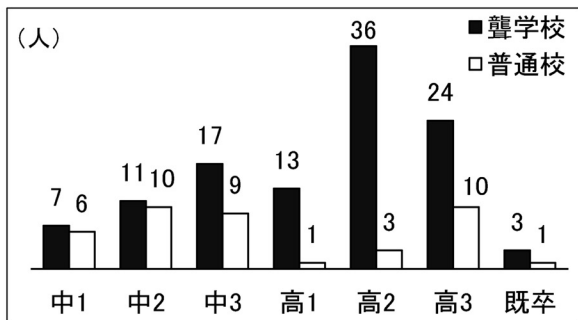
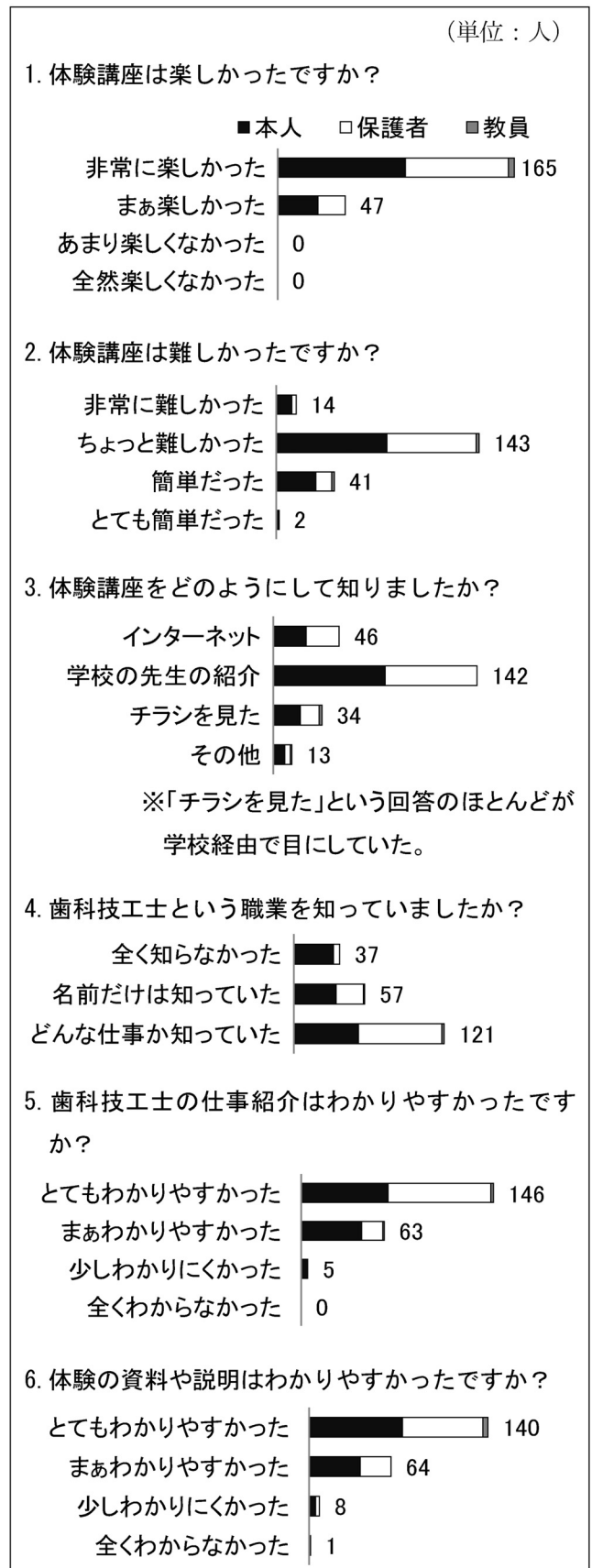


図11 参加者数 学年別 学校種別

6 アンケート結果

体験講座後に実施しているアンケート結果を図

12に示す。(平成19~27年度(9回分)、回答数226(参加者本人122, 保護者98, 教員4, 未記入2), 無記名)



7. 受講しての感想、気づいたこと

(本人)

- ・とても楽しかったです。歯科技工は難しいと思っていたけど、楽しくできました。
- ・他の所では体験できない貴重な体験ができたので良かった。
- ・細かい作業ばかりで大変でしたが、やりがいのある仕事だと思いました。
- ・将来、歯科技工士を目指したいと思う。
- ・全然知らない人達と一緒にだったけど、みんな耳が聞こえない僕と同じ立場の人達なので仲良く協力してやることができた。
- ・まったく知らなかったけど、やってみたら「もしかして自分に合ってる？」と思った。ちょっと興味がわきました。
- ・苦労したけれど歯科技工は面白いと思います。また作りたいです。
- ・私は細かい所までコツコツやるのが好きなのでこの仕事はいいなあと思いました。
- ・説明でビデオを見てから製作したので、とても良くわかりました。
- ・少しでも歯科技工士の仕事を味わうことができて楽しかった。また、自分で作ったものをお持ち帰りできるところがうれしい。
- ・歯科技工士の仕事を詳しく知ることができて良かった。難しい言葉がいくつかあったが写真があったため分かりやすかった。
- ・障害関係なしに働ける仕事があって、うれしかったです。
- ・これからの進路を決める参考となったのでとても良い経験となった。

(保護者)

- ・子供が楽しく受講していました。将来の進路が未定なので、体験を通して少しでも道標ができればと思いました。
- ・子供の1つの経験になればと思い受講しましたが、大変わかりやすく丁寧に指導していただき、中1でもよくできたと思います。
- ・実際に体験することが職業としての意識を持ちやすかったと思います。

- ・言葉で説明するのは難しいので、体験するほうが本人にわかりやすいと思い参加させていただきました。本人もかなり興味を持ったようです。
- ・現実的な可能性として、1つ職業が増えたようでとてもうれしいです。
- ・簡単ではない、やりがいのある職業であることがうかがえた。聴覚障害へのフォローがあって親としてはありがたいです。

図 12 アンケート結果

7 キャリア教育としての効果

(1) 進路指導の初期

歯科技工への興味の有無に関わらず、体験講座には進路について具体的に考えるきっかけとしての作用があることがアンケート結果からも分かる。歯科技工士の存在を知ってもらえるだけで我々としては大変うれしいことなので、進路指導の初期段階としての活用も大いに歓迎する。

(2) 進路選択との関連

体験講座を始めてから現在までの入学者 64 人中、入学前に体験講座に参加した者は 36 人 (56%) であった。

体験講座への参加と進路選択との関連について、歯科技工科在校生のうち入学前に体験講座を受講した 9 名にアンケート調査を行った。

歯科技工科への進学について、「体験講座に参加する前から決めていた」と回答したのは 1 名、「参加した後に決めた」と回答したのは 8 名であった。決めた理由は「作るのが楽しいと思ったから」「医療関係の仕事が出来ることを知ったから」「歯科技工科の雰囲気」「技工士の仕事をもっと知りたくなったから」「やりたいことが見つかったような感じ」「仕事にしたら続けられると思ったから」といった回答があった。

また、体験講座は「進路決定に役に立った」と全員が回答した。具体的には「歯科技工科に入るか、地元の専攻科に入るか迷っていた時期があったから」「内容を知らなければ決められないことなので、とても役に立った」「体験することによって技工士の仕事内容が分かるから」等の回答があった。

この結果から、体験講座への参加により歯科技工への理解が深まり、志望が明確化され、主体的な進路選択につながっていることが分かる。この点においてキャリア教育としての効果は大きいと考える。

進路選択における事前学習の重要性について、明倫短期大学歯科技工学科の調査「本学歯科技工士学科における学生の異動実態」によると、「休学の主な理由」は「進路選択の不適切」、「退学の主な理由」は「進路選択の不適切と学業不振」であり、「休・退学者の多くは、受験の段階で歯科技工の本質の理解が不十分のまま受験、入学したことが一因であると分かった。」と結論づけられている。また、「入学前にオープンキャンパスなどで歯科技工の職業を深く理解させるとともに夢を持たせる努力も必要であると考ええる。」とある。

8 おわりに

職業を知り、興味を持ち、見学や疑似体験等を通して理解を深め、納得したうえで自らの意思で進路を決める。その過程を踏むことにより、キャリア意識が高まり、働く意欲や覚悟につながっていくのではないだろうか。歯科技工科の3年間でも、講義や実習、職場見学や職場実習、就職活動等を通して学生のキャリア意識の高まりを感じているが、意識が高まると生活態度や学習面だけでなく、歯科技工の製作物も良くなり、手技的な面においても向上が見られる。

一日だけの体験講座ではあるが、参加生徒の在籍校とも連携し、キャリア教育としての効果をより高められるよう今後も取り組んでいきたい。

(文責 西俣 稔子)

〔付記〕

本研究の一部は第49回全日本聾教育研究大会において発表した。

〔参考文献〕

中央教育審議会 平成11年12月16日

「今後の初等中等教育と高等教育の接続の改善について（答申）」

相馬泰栄, 中澤孝敏, 植木一範

明倫歯科保健技工学雑誌 10(1), 119, 2007-03

「本学歯科技工士学科における学生の異動実態—休・退学および留年の実態と今後の課題について—」